

半導体製造装 米市場

現地法人社長には海外分圏内に位置する半導体機器の重要顧客2社に對する技術サポートを行うていく。従来はエンジニア2人で営業日本からの出張で対応を開始。当面は車で30

け電源装置の直接輸出額を1億円以上に増やす。変換効率を従来比10%高めた新製品を軸に拡販を進め、山谷のある半導体機器事業の収益安定化につなげる。

新製品の開発と平行し、海外の大手半導体製造装置メーカーの要求を満たす品質管理の新たなシステムを構築

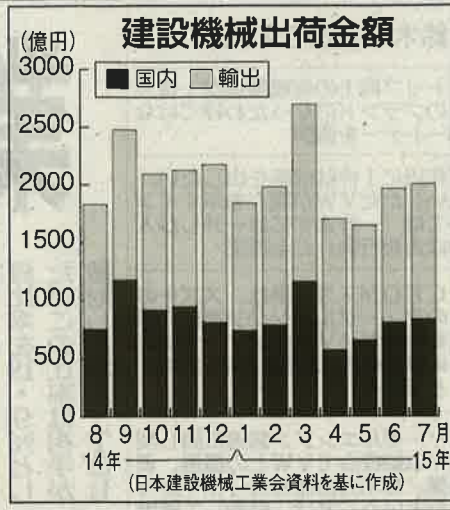
力制御システムは、マイコンによる数値制御を採用したほか、独自のプラズマ発生電源用D級RFアンプを搭載

新工場に適用した。これにより、海外事業拡大を検討してきた。新開発した電

建機出荷 7月2.9%増203億円

建機工まとめ 2カ月連続増加

日本建設機械工業会(建機工)が31日発表を含む総額)は、前年7月の建設機械出荷額を2.9%増の203億円となり、2



輸出は北米、中近東が引き続き好調で、同1.4%増の1167億円と2カ月連続増。国内はミニショベルやトラクターが伸び、同5.0%増の835億円と4カ月連続で増えた。

輸出は全9地域中4地域で前年実績を上回った。北米は住宅やイ

ンフラ向けがけん引し、同29.1%増と12カ月連続増。中近東はインフラ向けが伸び、同20.0%増と6カ月連続のプラス。オセアニア、中南米などの低調な地域を補った。中国は同27.3%増だったが、「前年同月が低水準だったためで、基調は良くない」(建機

国内はミニショベルが9月の排ガス規制強化前の駆け込み需要で同31.9%増。トラクターも一部機種が駆け込み需要で伸び、同31.0%増となった。油圧ショベルは排ガス規制強化の駆け込み需要の反動減が続き、同17.9%減だった。

工作機械 受注予測D1 9月45.1%改善19.7

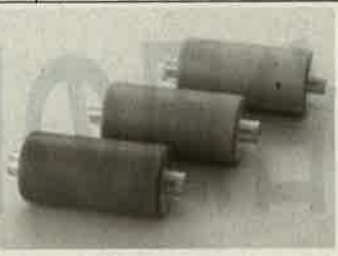
日本工作機械工業会(日工会)が31日発表した8月の工作機械短期受注観測調査による

と、9月の工作機械受注予測D1は足元から45.1%改善の19.7だった。内需、外需と

もに上向く。夏期休暇の影響で足元が低く、翌月が半期の決算月であることから大

I・MDコーティング

岩谷マテリアル(東京都中央区、03・3555・3211)の「I・MDコーティング」は溶射とコーティングの独自技術で



口滑な表面に抜群の離型性を発揮する。金属溶射の耐摩耗性をもち、離型性が持続するほか、研磨仕上げ可能で傷などにシビアなワ

紙上プレビュー

庫区、078・577・1345)は、チタンへのメッキと樹脂との密着性を浸漬処理で可能にした「ダイントIIB」を展示する。優れた特性を持つチタン

難加工技術展 表面改質展2015

チタンメッキ処理技術
大和化成(神戸市兵

複合セラミックス部材
タカギスチール(名古屋市中区、052・



は、表面の酸化膜がメッキ処理を困難にしていた。

ダイントIIBはこうした課題を解消、さまざまなメッキ処理が可能で、チタンの用途拡大に貢献する。



特性に応じた樹脂加工法
野田プラスチック精工(愛知県小牧市、0568・75・1237)は、熟知した技術集団がさまざまな経験とノウハウを生かし、特性に応じた樹脂加工法を取り組む。透明加工品(写真)は同社独自の加工方法を用い、アクリルやポリカーボネ

301・1801)が展示する「タイアルII写真」は炭窒化チタン系複合セラミックス。超硬に代わる新たな耐摩耗部材で、超硬やダイヤモンド鋼と比較して製品に傷がつきにくい。硬度を有しながら靱性があり、すべりも良い。熱にも強く800度Cでも硬度や曲げ強度は常温と変わらない。

難削材の旋削加工
高洋電機(三重県志摩市、0596・58・2121)は、放電加工での加工が主添のタンクステンをはじめてとする難削材を、旋削加工にすることで目産5000個以上量産加工する。また、高精度対応のほか、雌ネジ、雄ネジ、薄肉パイプなど幅広い形状にも対応する。今回は純タンクステン高精度量産加工品を展示する。

1トなどの透明素材を、バフがけなしの切削だけで優れた透明度を実現している。

産業界
などを手
作所は、
史を持つ
代の父親
トンを引
社したが
間は別の
向。そ
センター